

# 気づき、交流し、発表する体育授業\*

## —友だちと感じ合っって動くダンス—

房前 浩二・岡本 昌規・三宅 幸信・藤本 隆弘  
高田 光代・三宅 理子・藤原 宏美・松尾 千秋\*\*

新学習指導要領が告示され、保健体育科の目標に「心と体を一体としてとらえ」という表現が加えられた。その背景には、今日の子どものこころとからだに生じている発達の・人格的課題に対して積極的に取り組み、子どもたちがこころとからだを解放できるような運動学習の保障が求められていることがある。そのようなことはこれまでのダンス学習で、すでに意識的に取り組んできたことであるが、これまで以上に、誰もが運動することの心地よさや楽しさを味わい、友だちや自分自身の“こころやからだの声を聴く”ことで自分自身を認識し、自己表現の質を深めていきたいと考え授業を実施した。毎時間のダンス学習カードに書かれた感想や学習者自身による到達度評価、授業前後のダンスに対するアンケート調査の比較、授業終了後の自己評価及び感想から、自分自身のからだと対話し、友だちともからだでコミュニケーションしながら、みんなと作品を創作し発表する達成感・満足感を味わえたことがうかがえた。

### 1. はじめに

昨年、高校2年生のダンスの授業で、ことばによるコミュニケーションを使わないで、仲間とからだを触れ合い感じるままに動くダンスセラピー的な内容を取り入れたところ、授業後に「今日のダンスは癒されたわー」という生徒の声が返ってきた。友だちと「場」を共有し、「他者」との身体的交流を通して、他者から働きかけられている「自分」を感じ、そして感じたことを「表現」といったプロセスをたどることで、ほぐれていく自分のこころとからだに気づき、「感じることを楽しむ」ことができたからであろう。

今回の教育課程の改訂で、保健体育科の目標に「心と体を一体としてとらえ」という表現が加えられた。この表現が加えられた根本的な理由は、今日の子どものこころとからだに生じている発達の・人格的課題に対して、教師が積極的に取り組もうとする姿勢が示されている。自分のからだなのに思い通りに動かさない、なんだか動きがぎこちない、友だちとの関係をうまく作れない…そんな子どもがこころから夢中になってからだを動かすことに取り組めるような体験、こころとからだを解放できるような運動学習を保障することが求められている。そこで「体ほぐしの運動」が位置づけられたのだが、これらのねらいについてはこれまでのダンス学習でもすでに意識的に取り組んできたことである。今回の改訂は‘こんな遊び方もある’という感覚で、これまで以上に、誰もが運動することの心地よさや楽しさを味わいながら、自然・仲間・そして自分のこころやからだと対話してみようということをおねらったことなのであろう。

### 2. 研究のねらい

ダンスは、個人や集団でからだ全体を媒体にして表現したり交流したりする活動であり、リズムにのって、イメージをもってなりきって踊る楽しさや、仲間と感じ合っって踊る楽しさがある。その楽しさを味わうには、“自分のからだの声を聴き”、丸ごとの自分を投げ出して活動することが必要である。この“自分のからだの声を聴く”ことができるからこそ、丸ごとの自分を認識でき、自己表現の質が深まっていくのだと考える。しかし、自分のこころやからだを解放したり、人と関わるのが苦手な子は、活動すること自体に恥ずかしさを感じたり、自信がもてなかったりする。そこでそのような子どもたちに対しては、先に述べたようなダンスセラピー的な内容やボディ・アウェアネスなどが有効だと考える。

また、中学生においては、それまでの表現学習の経験の程度にも差が出てくる。そのような子どもも、ごく自然に仲間とからだを動かし、安心してダンスを楽しめるようにこころを配らなければならない。さらに、創作においては、からだの内部で起こった運動に対する欲求がカウントによって制限されることなく、イメージを持った「ひと流れ」を踊る心地よさを味わわせたい。

そこで、今回の授業では、単元のはじめにブラインド・タッチングなどのダンスセラピー的な内容あるいはボディ・アウェアネスを行うことで、自己の内部で感じる身体感覚・運動感覚に注目させた後、それらを毎時間のはじめにその時間に合った内容で継続して行いながら自主創造的な一時間完結の課題学習を行い、その一時間一時間の「踊る—創る—観る」の完結学習で積み重ねたものを作品づくりにつなげていくことを特に意識した。

\*広島大学大学院教育学研究科との共同研究の一部である

\*\*広島大学大学院教育学研究科

そして各時間には必ず学習カードによる前時の感想を返す場と、発表（見せ合い）の時間を設け、自分とは違うイメージに出会ったり、ひと流れを動く場面で困ったときにはどうするのか整理する時間を確保した。イメージをどう湧かせるかは、ダンスの創作においては永遠のテーマのようにも思えるが、こちらが提示する課題を手掛かりとして、あまり苦勞することなく、「ひと流れ」の動き・作品づくりを体験できるよう授業を計画し、実施した。

### 3. 研究手続き

- 1) 研究対象 広島大学附属福山中学校  
一年生 女子60名
- 2) 期 間 2001年9月～10月
- 3) 研究方法

以下の表1に示すような学習計画で実験授業を行い、前半の課題学習から学んだこと・自分たちで見つけた動きやイメージ及び感想と到達度評価を記入した生徒一人ひとりの「ダンス学習カード」と、授業前後のアンケート調査、実験授業終了後の自己評価及び感想から、学習の目標を達成する過程で、自己の内部で感じる身体感覚・運動感覚をどのように捉え、友だちとの関わりでそれをどのように工夫し、それがダンスの技能の向上とどのように関わっているのかを明らかにして、生徒一人ひとりのこころとからだを解放して自己表現できるダンスの授業のあり方を検討する。

表1 学習計画

第1時	オリエンテーション
第2時	「からだ対話しよう」 (ごろにゃ～ん/ブラインド・タッチング/ リズムに乗って)
第3時	「しんぶんしで遊ぼう」 (スペース探し)
第4時	運動課題「走る—止まる」 (テレパシー)
第5時	運動課題「集まる—跳び散る」 (円形スペース探し)
第6～7時	イメージ課題 「スポーツ 感動の瞬間」 (ピックアップリーディング)
第8～10時	小作品作り
第11時	発表
第12時	まとめ

※( )内はボディ・アウェアネスあるいはダンスセラピー的な内容

第1時は、図1のオリエンテーション資料を用いて、‘からだでコミュニケーション’をキーワードに学習の目標と方法を示した後、本校の先輩の作品・全日本高校・大学ダンスフェスティバルの作品をVTRで鑑賞し、授業の見通しを持たせた。また、ダンスについての事前のアンケート調査を行った。

第2時は、自分のからだ・友だちのからだを感じながら動く、リズムにのって思い切りからだを動かすという構成で、ダンスに対する恥ずかしい・難しいという気持ちを取り除くよう計画し、実施した。

第3～7時は、自主創造的な一時間完結の課題学習を行ったが、いずれもその課題学習に入る前に、その時間の内容にそった身体感覚・運動感覚に注目させるような課題を行った。

第8～10時は、課題学習で出たテーマの中から、一人ひとりが一番イメージのわくもの、あるいは心に残ったものを一つ選んで、そのテーマ毎にグループ分けをし、小作品作りに取り組んだ。

第11時は、事前に体育係・各グループのリーダーと打ち合わせをして、生徒たち自身でプログラムを決め、司会進行をしてミニ発表会を行った。発表に入る前に、授業者がプリント(図2)を用いて、改めてこの授業の目標や発表することの意図を確認し、発表するときの態度、鑑賞するときの観点を示して、発表に移った。なお、鑑賞には鑑賞カード(図3)を用いた。

第12時は、ミニ発表会の作品を他クラスのものも含めて鑑賞し、前時の鑑賞カードをまとめたものを提示してまとめとした。また、ダンスの授業を終えてのアンケート調査、自己評価、創作活動を通しての感想を書かせた。

1時間毎の授業は、図1に示したように、まずダンス学習カードを配り、‘みんなのダンス学習カードから’というテーマで、前時の気づきや感想を何人かが発表し、「ひと流れ」を動くときのポイントを整理した。その後、その時間の課題に合った内容のダンスウォームアップを行い、課題学習に入った。課題学習は全体で動いた後、イメージを持って「ひと流れ」を動き、最後に見せ合いを行って、お互いのイメージや気づきを交換をする場とした。最後に各自で課題に対する気づきや課題からイメージしたこと・感想をダンス学習カードに記入・提出して授業を終了した。

### 4. 結果と考察

ダンスは、自由に、創造的に、からだを媒体にして表現したり交流したりする活動である。今回前半で取り上げた課題学習は、松本<sup>1)</sup>が「創作のメカニズムと学習者の経験の程度に応じて、最初の一步から自分自身で表現

### ダンスオリエンテーション

1年( )組( )番 名前( )

1. **ダンスって何だろう？**  
 あなたの気持ちや、言いたいことを誰かに伝えるための表現方法はどんなものがありますか？思いつくかぎり(10個以上!)書き出してみよう!

ダンスではもちろん( )を使って表現します。

2. **学習の目標**  
 ①思い切りからだところを投げ出して、ダンスの世界を楽しもう!  
 ②いろいろな課題から動きを広げ、イメージの世界で遊ぼう!  
 ③友だちといっしょに動きを作り出して、学習の方法を学ぼう!

3. **授業での約束**  
 ①恥ずかしがらずに堂々と  
 ②思い切りからだを動かそう  
 ③友だちの表現を認めて楽しもう  
 ④自分のからだに向き合おう

口だけでおしゃべりしないで、からだでおしゃべりしながら、みんながハッとする動きを見つけよう!

4. **1時間毎の授業の進め方・学習カードについて**  
 ①学習カードの返却/みんなのダンス学習カードから…  
 ②ダンスウォームアップ  
 ③課題の学習  
 ④課題からのイメージを持って動く(自分自身で/友だちと見せ合って)  
 ⑤グループでイメージを持って「ひと流れ」をつくる  
 ⑥見せ合い この一瞬を大切に!  
 ⑦学習カードの記入・提出(筆記用具を持ってきておく)

どんな表現が心に残っただろう…それはなぜ?

5. **VTR鑑賞** (先輩の作品・ダンスフェスティバルの作品)

図1 ダンスオリエンテーション資料

### 小作品の鑑賞

◎ バッチリ  
 ○ だいたいOK  
 △ もう少し  
 × あまりよくない

①一杯、堂々と表現していたか?  
 ②テーマにふさわしい動きを見つけていたか?  
 ③盛り上がりのある「はこび」が工夫されていたか?

	題名	感想をひとこと!	①	②	③
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					

1年( )組( )番 名前( )

図3 鑑賞カード

1年ダンス

### ミニ発表会

「からだでコミュニケーション」を合いことばに、6時間の課題の授業を終えて、小作品づくりに取り組みました。さて、どれだけ自分の思いを表現できるようになったでしょうか。

発表の前に、学習の目標と約束を思い出してみよう

—学習の目標—

①思い切りところからだを投げ出して、ダンスの世界を楽しもう!  
 ②いろいろな課題から動きを広げ、イメージの世界で遊ぼう!  
 ③友だちといっしょに動きを作り出して、学習の方法を学ぼう!

—授業での約束—

①恥ずかしがらずに堂々と                      ②思い切りからだを動かそう  
 ③友だちの表現を認めて楽しもう            ④自分のからだに向き合おう

今日は今までのまとめの時間です。友だちの作品を鑑賞するのも、お互いを認め合い、自分の幅を広げるために大切です。友だちの表現をじっくりと味わって、今まで知らなかった友だちの個性を発見してください

発表する人は、はつとさせる大きな動きで! 堂々と発表しよう

見る人は、一番表したいことが印象的になっているかな?  
 テーマにふさわしい動きになっているかな?  
 運動の課題(走る—止まる、集まる—跳び散る)を生かしているかな?  
 と、思いながら見ていこう

図2 ミニ発表会 資料

する主体的な表現を味わいつつ、表現に必要な技能を蓄え、次第により大きい望みに答えるよう計画されている。」また、「動きの上達をも含め、ダンスの表現的性質を丸ごと擁しながら、自由で新鮮な表現を生む段階と手順を見出し、創作の喜びを段階的に体験することができる」と述べているように、この学習によって得られる個人やグループの成果及び満足感が確かなものであればあるほど、ダンスへの興味や関心は高まり、学習の方法に対して見通しを持って、主体的かつ意欲的に取り組む力を育てることができると思う。

しかし、自分のところやからだを解放したり、人と関わることを苦手とする子は、その活動自体に恥ずかしさを感じたり、自信がもてなかったりするのではないかな。

そこで、今回の授業ではオリエンテーション後の1時間と各課題学習の導入部分に、自分のからだど、あるいはじぶんのからだで対話する課題を付け加えて、さらに動機付けを強め、自己表現の質が深まることを目指した。

1) 第2時のダンス学習カード(自由記述)のまとめ

図4は、第2時の「からだ対話しよう」のダンス学習カードから、自由記述による課題から学んだこと及び

感想をまとめたものである。ダンスについての事前のアンケート調査では、音楽に合うように振り付けをしたり、先生が振り付けをしたダンスを踊った経験は約6割があると答えており、音楽に合わせて踊ることは楽しいと感じているようである。しかし、4) 学習前・学習後の意識調査の項目でくわしく述べるが、からだで表現することについては、「なりきって踊るのは楽しいか」や「テーマを聞いて表したいことが浮かばない方か」という問いに対して、約6割強がよく分からないと答えていたり、作品を作って発表した経験があるのは約3割であることから、創作ダンスにはじめて触れる子どもたちを対象とした授業であったといえる。

#### ①テレパシー・友だちとのふれあい

「テレパシー」は、オリエンテーションのはじめで、「あなたの気持ちや言いたいことを誰かに伝えるための表現方法はどんなものがありますか？ 思いつくかぎり書き出してみよう！」のときに学習者から出たことばであり、その後、彼女たちの間でキーワードとなっていったものである。感じていることを気軽にからだで表現できなかったり、恥ずかしくて思い切っただけで表現できなかった学習者たちが、目を閉じ、お互いの体温を感じ、友

だちと呼吸を合わせ、自分のところと相手のところを感じて動いていこうとすることで、自然と動きが生まれること、からだでコミュニケーションがとれることが実感できたことを示している。八木<sup>2)</sup>は「目を閉じることが不安を増幅する要因となりうるので、指示の段階で、『どうしても気が進まなかったら（怖いと思ったら）目を開けて（中止）ください』というような選択方法を伝えておく必要がある。そして、そのときの気分や人によりこうした事柄への受け止め方が異なっている、という認識を共有することも重要である。」としている。今回の授業でも、不安を感じたら目を開けていいこと、それぞれの感じ方には違いがあることを説明して学習に入ったが、特に不安を感じて活動を止めたものはおらず、みなお互いの感じていることに集中して取り組めたようである。

学習の入り口でこうした経験をしたことで、ここからからだ解放され、興味・感心がふくらんでいったのではないか。この「テレパシー」にまとめられる記述がこの時間のみならず、単元を通して学習カードに出現していることから、この1時間は有効であったと言える。

このことは学習者の「『木とベアー』や手を合わせて動くとき、相手と気持ちが伝わって気持ちよかった。楽しかった。ほんわかとした感じになれた。」「ことばなし

テレパシー

- ・ことばで言わなくても、「テレパシー」で通じ合ったら自然と動きが出る。
- ・ダンスはまず、相手（仲間）の動きや思っていることを感じる事が大切。
- ・ダンスでも、コミュニケーションがとれることが分かった。
- ・手のひらをあわせて、動かしあったとき、いろいろな場面を思いうかべることができて気持ちよかった。
- ・ゆったりしたり、激しくしたり、いろんな感じが出てくる感じがする。
- ・ふんわりしたり、激しくなったり、速くなったりおそくなったりして、頭の中でいろいろ思いうかべること。
- ・友だちと通じた気がした。
- ・木とベアーや手を合わせて動くとき、相手と気持ちが伝わって気持ちよかった。ほんわかとした感じになれた。
- ・友だちの考えていることを気にしながらするのがとても楽しかった。
- ・ことばなしで気持ちが伝わるってすごい！なんか神秘的！

友だちとのふれあい

- ・友だちのおなかの上が気持ちよかった。こんなに体温を感じたのは初めてだった。
- ・背中と背中をくっつけて、相手の顔が見えなくても気持ちよくわかった。
- ・目をつむっていたら、なんか相手の動きしかわからなくなる感じで、なんか不思議だった。
- ・他の友だちと息づかいや調子を合わせるのが楽しかったです。

動くことの楽しさ

- ・思い切っただけで楽しかった。次が楽しみです。
- ・最初少し恥ずかしかったけど、みんなでやっているとこう楽しかった。おもしろくてよかった。
- ・たくさんからだを動かして表現することは、とても楽しかった。もう少し自分でもからだを動かしてみようと思う。
- ・汗をたくさんかいて、楽しかった。
- ・気軽に踊れて楽しかった。
- ・おもしろかった。最初はいやだったけど、以外と楽しかった。思っていたよりいやではなかったです。
- ・なんかすごくおもしろかった。でも、おもしろすぎて、ことばのほうがからだより動いていたと思う。今度からは、もうちょっとからだで動いてみようと思う。
- ・はじめの授業だけど（何をやるのか少し不安だったけど）、とても楽しく動けてよかった。
- ・すごい楽しかった。リズムにのると楽しいね。
- ・音楽に合わせて動くのが楽しかった。
- ・とにかくおもしろい。もっともっとおどりたいです。
- ・人を見ているのはいいけど、いざ動いてみてと言われるとはずかしくてできなかったのが恥ずかしがらないことが目標です。
- ・とても楽しかったが恥ずかしすぎてあまり大きな動作ができませんでした。
- ・みんなの前で踊るのは、少し恥ずかしかったけど、やってみると楽しかった。
- ・みんなはずかしくがらずにしていたので、私も楽しくできました。おもしろかった。

図4 ダンス学習カード（第2時「からだ対話しよう」）のまとめ（一部を抜粋）

で気持ちが伝わるってすごい！なんか神秘的！」という記述からもうかがえる。

## ②動くことの楽しさ

「楽しかった」「おもしろかった」という記述は、実際に動いた第1時間目がそれまで抱いていた不安とは裏腹に、生き生きとした活動であったことを伝えてくれる。さらに、「でも、おもしろすぎて、ことばのほうからだより動いていたと思う。今度からは、もうちょっとからだで動いてみようと思う。」という記述のように、今後の授業での学習方法への見通しをもって意欲的になっていることがうかがえる。

## 2) 第3～7時のダンス学習カード(自由記述)のまとめ

図5は、第3～7時の課題解決学習のダンス学習カードから、自由記述による課題から学んだこと及び感想を時間の経過に沿ってまとめたものである。

### ①からだでコミュニケーション

このカテゴリーグループは第4・5時の記述が中心になっている。第4時「走る—止まる」、第5時「集まる—跳び散る」の課題学習の前に、ダンスセラピーからヒントを得て第4時は「テレパシー」、第5時は「円形スペース探し」、を行ったものである。第3時「しんぶんしで遊ぼう」での「スペース探し」、第6・7時「スポーツ 感動の瞬間」での「ピックアップリーディング」もダンスセラピーからヒントを得て行ったが、第3時はしんぶんしをお腹につけて走ること、しんぶんしを使って動くことについて、また第6・7時はスポーツという具体的に存在する動きをどのようにダンスにしていくかという方向に記述が集中している。そのためコミュニケーションに関する記述が少なくなってしまった。

第4時「走る—止まる」では、二人組での鬼ごっこ(①タッチされたらピタッと止まってポーズ、②タッチされたら相手に「忍法〇〇」をかけて二人でピタッ)と手拍子遊び(全員で拍手～合図でピタッと止める)でこの時間の課題の質をつかませて、「テレパシー」を行った。以下の「学習の方法を見通す」でも述べるが、対極の性質の動きを、打ち合わせをせずお互いのからだでコミュニケーションすることで、「不思議な感じ」を味わっていることが分かる。「みんなで息を合わせて動く」大切さを感じ、ことばで確認しておかなくても「ちょっとだけ他の3人がどう動くのか分かったような気がした。」と述べている。

第5時は「みんなとテレパシーって感じで集まれて気持ちよかった。」と記述しているように、課題学習に入

る前から音楽に合わせて「集まる—離れる」をいろいろな動きで行っていて、もうその時点で「オラウータンの星」というタイトルまで浮かんでいたグループもある。これらの段階を踏んだことが、「ひと流れ」を「おおざっぱ」に動いて比較的短時間で作ることを可能にしたように思う。いわゆる一時間完結の課題学習のはじめにダンスセラピー的な内容の課題を増やしたにもかかわらず、見せ合いまでできたことは一定の成果があったのではないかと思っている。

### ②学習の方法を見通す

ほとんどの者が創作活動ははじめての体験で、「難しそう」と感じていたり、どのようにすればよいのかとまどっていたようであるが、課題学習の経験を通して、お互いの動きを見せ合うことによって、それぞれの動きを評価し、適切な学習の方法を感じ取っていった様子が見えがえる。「相手のしんぶんしの動きを見てすることで、イメージがどんどん出てきて楽しかった。」「空気がピタッと止まる瞬間が緊張感があって楽しいし、気持ちよかった」「止まる×3のときに、3回違う動きをするとちょっと変わった感じがする」「『集まる—跳び散る』のイメージも書き出すとたくさんあって、自分たちでもびっくりした」など、課題の意図を理解し、それを動きづくりのヒントとして受け止めているようである。また、「(スポーツ)感動の瞬間だけ集めて流れを作っても、ちゃんと踊りっぽくなっていた」「そのスポーツにある動きでなくても、イメージ的に合っていた動きはすごくわかりやすかった」など、主題を捉えて誇張や繰り返しをするという表現方法を実感したようである。

### ③自我意識・自己実現の満足

ダンスを創作していく過程は、「自分のからだの声を聴き」丸ごとの自分を投げ出して活動する過程である。その丸ごとの自分を認識し、自己表現していくことこそが、自分自身の再確認の場面ではないかと思う。記述では「自分らしさ」を表現し、自己を実現した喜びや満足感が「ここまで私が動けるとは思ってもみなかった。最後まであきらめなければ必ずできる!？」と記されている。また、自分の外見的なものにとらわれずに、こころとからだを解放して大きく動くことで、「大胆にも自分をモデルさんにでき」自分のからだを「キレイで流れているみたい」と感じ、自由に自分を変身させられる魅力を感じていることがうかがえる。このような自信が持てる体験を積み上げていくことで、自己に目覚め、「自分らしさ」を確立していつている様子が見えがえる。

#### —からだでコミュニケーション—

- ・友だちとのテレパシーはダンスにとってとても大切！！
- ・みんなで息を合わせて動く。テレパシー(?)で通じ合う。
- ・4人でやったので、ちょっとだけ他の3人が次にどう動くのか分かったような気がした。
- ・みんなでタイミングを合わせて止まったり、手拍子をする、不思議な感じがした。世界中が止まったような感じだった。
- ・ことばを使わなくても通じ合えることができる。
- ・最後の方は、みんなとテレパシーって感じで集まれて気持ちよかった。
- ・みんなでのコミュニケーションが大切だと思った。
- ・みんなの気持ちをそろえて、みんなで一緒に動くこと。
- ・大勢で心を合わせて息のあったダンスを踊ることができた。
- ・ひと流れでやれるように何度も動く。流れは動いているうちにできていく。

#### —学習方法を見通す—

- ・しんぶんしを使うことでいろいろな表現ができて楽しかった。
- ・相手のしんぶんしの動きを見てすることで、イメージがどんどん出てきて楽しかった。
- ・身近にあるしんぶんしの動きがそのままダンスに取り入れられた。どこにでもあるものでも、工夫すれば楽しいダンスができる！
- ・しんぶんしに合わせて、跳んだり、揺れたり、転んだりするのがおもしろかった。ちょっと恥ずかしさを捨てられたと思う。
- ・空気がピタッと止まる瞬間が緊張感があって楽しいし、気持ちよかった。
- ・ただ動いているだけでなく、ピタッと止まってみると、カッコイイ感じもでてくること。
- ・走っていて急に止まると、空気が変わるような気がした。
- ・止まる×3のときに、3回違う動きをするとちょっと変わった感じがする。
- ・走る、止まるといういつもしている動作でも、組み合わせたら楽しい動きになることが分かった。
- ・「跳び散る」のイメージを書き出すとたくさんあって、自分たちでもびっくりした。ポップコーンは3通り(グループ)あって、はじけるところがおもしろかった。
- ・う～ん。はじけるのって難しい。集まる・跳び散るでも、一瞬じゃなくても、パリ娘みたいにいろんな発想があるんだな。
- ・感動の瞬間だけ集めて流れを作ってもちゃんと踊りっぽくなっていた。
- ・そのスポーツにある動きでなくても、イメージ的に合っていた動きはすごく分かりやすかった。

#### —自我意識・自己実現の満足—

- ・自分しか認めない感じの私だけど、認められるようになってきた。動きがなめらかならキレイで流れているみたい。
- ・大きくふわ～んと動くと、大胆にも自分をモデルさんにできる。
- ・ここまで私が動けるとは思ってもみなかった。最後まであきらめなければ必ずできる！？

※各カテゴリーグループは時間経過に沿ってまとめている。  
(第3時→第4時→第5時→第6時→第7時)

#### —美的創造・鑑賞—

- ・最後の動きを見せ合うところで、同じ課題なのに、いろいろなダンスが工夫できて友だちもよく動いていて、見るのが楽しかった。いろいろな感じ方があるというのが分かった。見たことない動きもたくさんあった。
- ・ゾンビのイメージをはりめぐらしながら思うままに動いたので楽しかった。
- ・「花火」のグループの花火が散った後の小さな音が印象的。
- ・ポップコーンが少しはねて、だんだんふくらむときに床をたたいたり手拍子を大きくしていくことを工夫しました。
- ・スポーツ感動の瞬間ではないように感じた。もっと「さび」をつくってみたいかった。
- ・「スノーボード」は、みんな動作が大きくてびっくりした。とても力強さがあった。大きく動くのはいいこと！スノーボードをダンスで表すなんてとても難しそうだけど、見て感動した。
- ・「ハンマー投げ」の人のように“うれしい”とか“くやしい”などの気持ちを伝えたいときは大きさに動くと伝わるんだなと思いました。
- ・喜びをどうやってやればよいか分からなかったけど、自分がやってる人だったらどのようにするかを考えて表現しました。

#### —学習への取り組み・技能の進歩向上—

- ・なりきってそのものの気分にひたるのがいい！
- ・まだすこしは恥ずかしいけど、人に自分を見てもらうのもけっこう気持ちいいなと少しだけ思いました。
- ・イメージに合わせて動きを作るのは楽しいけど難しい。
- ・何人かでやる場合は、それぞれの位置の関係ですごく感じが違う！次回は他の人との位置も考えてやりたい。
- ・終わってからも先生が合図するまで止まっておくと“オブジェ”みたいでキレイ。
- ・動きはバラバラの方がきれいに見えたり、みんな一緒に動く方がきれいに見えたりする。
- ・ひと流れの動きの中に「集まる—とび散る」などの動きを入れると、いい作品になる。
- ・堂々とやると、やったあとが気持ちいい。
- ・新体操の人の目線でリボンとかが分かった。無いはずのものがあるように見えた。目線もかんじん！
- ・スノーボードの動きなんて分かんないかと思ってたけど、高さをかえるだけで、ダンスにボリュームが出てくる！
- ・動きの速さや大きさを変えただけでずいぶん違う印象になる。
- ・時間差を付けたらおもしろいということ。
- ・すごく体が熱くなった。それくらい動いた。本当に本気になった。人に見られてたから？もうだいたい恥ずかしいって気持ちはなくなってきたよ～ん。

#### —ダンス観の拡大—

- ・恥ずかしかったけれど、自分で動きを見つけたり、考えたりするのは楽しかった。
- ・自分たちでテーマを決めて、自由なダンスができて楽しかったです。迫力が出せ、おもしろかったです。
- ・自分たちで作っていく事の大切さが分かった。たおれ方、止まり方も大切だと思った。
- ・みんなで動きを合わせて集まったり、跳び散ったりするのがすごく楽しかった。
- ・自分は自分で、ある程度は人と同じにしなくても想像で動けば、楽しくなってきました。

図5 ダンス学習カード(第3～7時の課題解決学習)のまとめ(一部を抜粋)

#### ④美的創造・鑑賞

学習者の記述から、自分が今まで出会ったことのない動きに出会った新鮮な驚きや、それを自分たちの創作に生かそうとしていることがうかがえる。お互いの動きを鑑賞することで、「同じ課題なのに、いろいろなダンスが工夫できていて…見るのが楽しかった。いろいろな感じ方があるというのが分かった」とし、自分も「ゾンビのイメージをはりめぐらしながら思うままに動いたので楽しかった」、他グループの動きの工夫に刺激を受けて、「もっと‘さび’をつくってみたかった」と起伏のある動きの必要性を感じている。また、「大げさに」「自分がその人だったらどのようにするか考えて」動くことで伝えたいことが伝わっていくのだと手応えを感じている。

#### ⑤学習への取り組み・技能の進歩向上

課題学習が進むにつれて、学習への取り組み方や技能の上達を感じられる。「なりきって」「堂々と」動けるようになり、「人に自分を見てもらうのも気持ちいい」と感じたり、「恥ずかしい」という気持ちがなくなってきたと自信がうかがえる。また、「動きはバラバラの方がきれいに見えたり、みんな一緒に動く方がきれいに見えたりする」「ひと流れの動きの中に『集まる―跳び散る』などの動きを入れると、いい作品になる」という記述からは、同じ動きをしても「群」で動くときは空間構成で感じが変わること、動きや流れに起伏が出せることを感じ取っている。さらに、「目線もかんじん!」「高さを変えるだけ」「動きの速さや大きさを変えるだけ」で「ダンスにボリュームが出てくる!」「ずいぶん違う印象になる」「おもしろい」と記述している。

特に「スノボの動きなんて分かんない…」と記述した学習者とそのグループのメンバーは、第6時の「スポーツ 感動の瞬間」の時間には「スノーボードをどのように表現すればよいか分からなくて難しかった」と感じており、見せ合いの場面では、鑑賞者も「スノボをダンスで表すなんてとても難しそう」と感じていた。実際、第6時の発表では、ただ両手を開いて上手から下手へ移動するだけの動きでしかなかった。それが、「思い切って大きく動くこと」「本当にすべっているようなつもりで脚や腰を曲げること」「メンバーそれぞれの動きの高さを変えること」「集まる―跳び散るを入れること」で、第7時にはクラスで最高の動きになっていた。つまり、課題学習の過程において、取り組み方や技能が確実に向上していることがうかがえるのである。

#### ⑥ダンス観の拡大

先に、丸ごとの自分を認識し、「自分らしさ」を表現

していく自分自身の再確認の場こそがダンスを創作していく過程であると述べた。「大胆にも自分をモデルさんにできる」すばらしさに気づくことでダンスの特質に触れることができ、ダンス観が変容され確立され拡大されていく。第2時目に「振り付けが決まっている方が分かりやすくてよかった」「創作は難しそう…」と感じていた者もいたが、「自分たちでテーマを決めて、自由なダンスができて楽しかった」「自分たちで作っていくことの大切さがわかった」と意識の変容が見られ、「自分は自分で、ある程度は人と同じにしなくても想像で動けば、楽しくなってきました」と気づいたことが分かる。

#### 3) 毎時間の到達度評価

これまでは、主に記述をまとめたものについて述べてきた。では、毎時間の学習者自身の自己評価による到達度評価はどのような変化が見られるであろうか。授業を通しての約束でもある「①恥ずかしがらず堂々と」「②思い切りからだを動かそう」「③友だちの表現を認めて楽しもう」「④自分のからだ向き合おう」について、それぞれ4：バッチリ／3：だいたいOK／2：少し不十分／1：全く出来ないという4段階で、時間を追ってまとめたもの（平均値）が図6である。

どの項目も、時間を重ねる毎に達成度が増していることがわかる。第6時の「スポーツ 感動の瞬間」では「④自分のからだ向き合おう」以外の項目について一度落ち込みが見られるが、これはそれまでの「運動の課題」から「イメージの課題」に移ったことで、主題をどのように捉えたらよいかといったことなどから、学習者にコンフリクトが生じたためではないかと考えられる。自分たちの選んだスポーツの主題をうまく捉えきれなかったために、他のグループの目を意識して小さくなる自分のからだに気づいたということなのであろう。これは自由記述の中で「スノボをどのように表したらいいか」というところで述べたことから分かる。しかし、同じ課題の2時間目には、「①恥ずかしがらず堂々と」をのぞけば（この時間は公開授業であったため、多数の参観者があった）6時間を通しての最高値を示しており、この6時間の学習の積み重ねが学習者の自信となり、ダンス学習を楽しいと感じさせるようになったのであろう。特に、「④自分のからだ向き合おう」が時間を追う毎に高くなっているのは、自分自身のからだを潜り抜けた動きが表れ出ていることを実感しているためだと考える。図5のそれぞれの項目に見られる記述からも、友だちの表現を認め、自分のからだ向き合い、思い切りからだを動かしたという達成感・満足感がうかがえる。

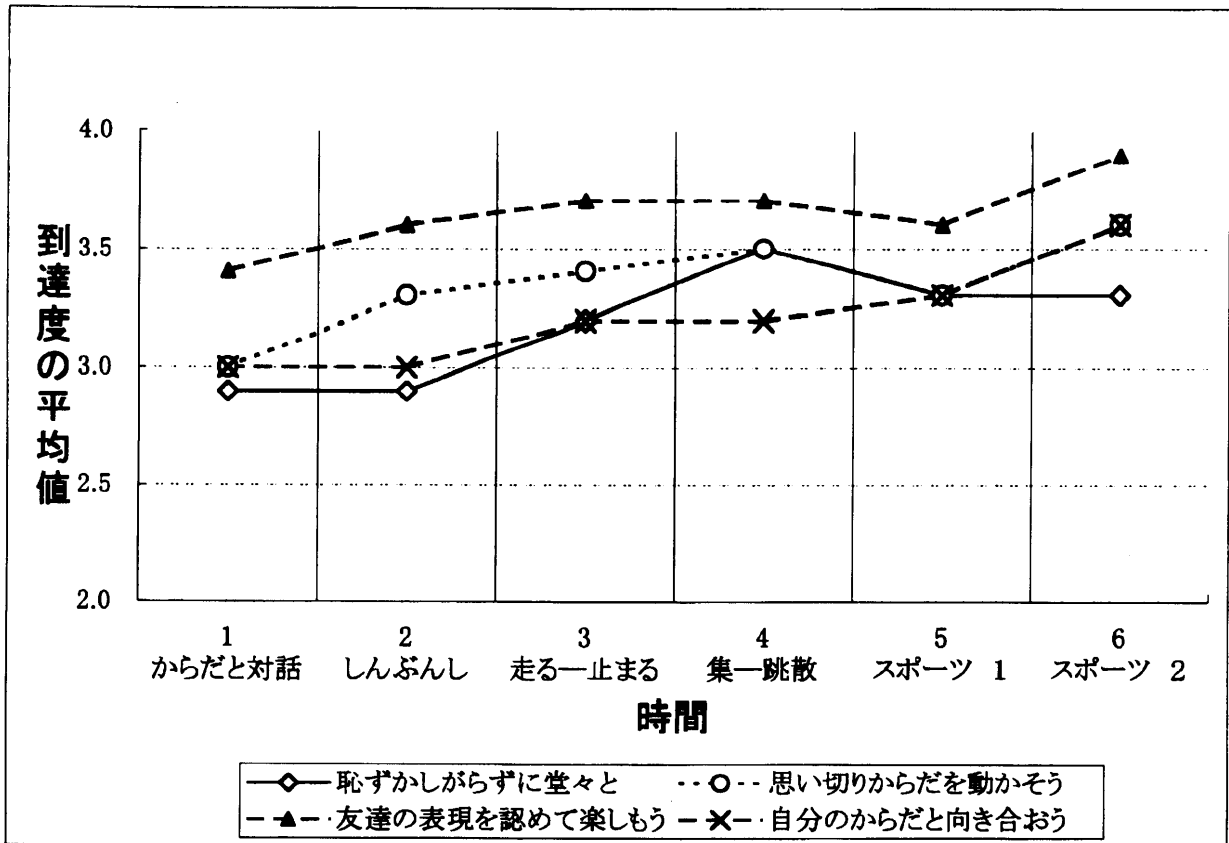


図6 毎時の到達度評価

表2 学習前後のダンスについての認知の変化

(人)

質 問	学 習 前			学 習 後		
	Yes	No	?	Yes	No	?
音楽に合わせて踊るのは楽しいですか？	44	1	11	56	0	1
表したいものになりきって踊るのは楽しいですか？	22	1	34	53	0	4
感じたことを動きで表現することは楽しいですか？	26	0	31	50	0	7
表したいことがあってもどう動いていいかわからない方ですか？	20	14	23	3	30	24
動くことははずかしくて思い切ってできない方ですか？	17	16	24	6	36	15
題を聞いても表したいことが何も浮かんでこない方ですか？	9	15	33	2	46	9
動き方や表し方を工夫するのは楽しいですか？	36	0	21	54	0	3
友だちに動きを見てもらふことは楽しいですか？	13	13	31	35	1	21
友だちの動きを見せてもらふのは楽しいですか？	55	0	2	56	0	1
友だちと意見を出し合って動きをつくることは楽しいですか？	40	1	16	52	0	5
難しく考えず、感じたことを気軽に表現する方ですか？	22	10	25	30	5	21

(※合計数が57以下のところは、学習者の未記入による。)



#### 4) 学習前後の意識調査

表2は、第1時のオリエンテーションの時間と、第12時のまとめの時間に行ったダンスについてのアンケート調査をまとめたものである。学習前は、「音楽に合わせて踊るのは楽しい」が44人、「友だちの動きを見せてもらるのが楽しい」が55人と、ほとんどの者が音楽に合わせて踊ったり踊るのを見たりすることが楽しいと答えている。

それに対して、「表したいものになりきって踊る」「感じたことを動きで表現する」「友だちに動きを見せよう」ことの「楽しさ」については、約半数が「よくわからない」と答えており、創作するという経験が少ないことがわかる。それが学習後は「表したいものになりきって踊るのは楽しい」が53人、「感じたことを動きで表現することは楽しい」が50人、「友だちに動きを見せようことは楽しい」が35人と、約9割の者が自分の感じたことをなりきって踊ることの楽しさを感じ、約6割が友だちの前でそれを表現することの楽しさを感じていることがわかる。このことは学習者の「そのものになりきる楽しさ。自分じゃないものになりきってすごい楽しい！」という学習後の創作活動を通しての記述からもうかがえる。また、「動き方や表し方を工夫する」「友だちと意見を出し合って動きを作ること」の楽しさについては、学習前もそれを6割の者が感じているようであったが、学習後は約9割の者が楽しいと答えており、「ダンスが楽しいと感じられる授業」であったことがうかがえる。

また、学習後に「表したいことがあってもどう動いていいかわからない」「はずかしくて思い切ってできない」「題を聞いても表したいことが何も浮かんでこない」と答えた者は約1割に減っていて、特に「題を聞いても表したいことが何も浮かんでこない方ですか？」という問いに対して「No」と答えた者が15人から46人に増加したことは、「イメージをふくらませる」ということに対しても、ある程度の成果があったのではないかと考えられる。

しかし、「表したいことがあってもどう動いていいかわからない」という問いに対しては、「? (YesかNoかよくわからない)」と答えている者が学習前が23人、学習後が24人であり変化が見られない。この学習後「? (YesかNoかよくわからない)」と答えた人数の内訳を調べてみると、学習後に「? (YesかNoかよくわからない)」と答えた者のうち13人が学習前も「? (YesかNoかよくわからない)」と答えている。学習前に「? (YesかNoかよくわからない)」と答えた残りの10人は学習後は「表したいことがあってもどう動いていいかわからない」という問いに全員が「No」と答えている。そんな学習

者たちの授業後の感想には、「友だちといっしょにやると、はずかしくなかったし、互いの動きを見て次のことをやる、とかそういうのがな～んとなく分かるようになった」「友だちがどんな風に表現しているかというのが見られてとてもよかった」「自分の思った通りにやればけっこう伝わるといのが分かった」「みんなの意見が集まると、どんどんダンスの世界が広がっていくような気がしました。友だちの表現を認めあってどんどんよい作品ができていくんだと思いました」「最初ははずかしかかったけど、友だちが認めてくれるんだな～と思うとダンスが楽しくなった」という記述がある。どのように創作活動を行っていけばよいのかということが何となく分かり、それを支えたことがらとして、友だちとお互いの表現を認めあってダンスの世界を広げていけたことがうかがえる。

それに対して、学習前後ともに「表したいことがあってもどう動いていいかわからない」という問いに「? (YesかNoかよくわからない)」と答えた13人は、「創作活動を通して困ったこと」について、「自分が伝えたいことを相手が分かってくれない」「実物のものとの違いとかを難しく考えてしまい“どうしよう、どうしよう”と困ってしまった」「イメージはあるけど、それをどう結びつけて踊ればいいのかよく分からなかったりもした」と記述している。

学習前後に「表したいことがあってもどう動いていいかわからない」という問いに「? (YesかNoかよくわからない)」と答えた13人以外で、学習後「? (YesかNoかよくわからない)」と答えた11人の学習前の答えは、「Yes」が6人、「No」が5人であった。その学習前に「No」と答えたが学習後は「? (YesかNoかよくわからない)」と答えた5人の「創作活動を通して困ったこと」についての記述には、「意見を言ってくれない子がいた時。自分の考えも教えて欲しかった。自分の意見を説明しきれなかった」「みんなの意見が合わなくて、動きがなかなか決まらなかった」とグループで創作していく難しさを述べている。

それに対して、学習前には「表したいことがあってもどう動いていいかわからない」という問いに「Yes」と答えたが学習後は「? (YesかNoかよくわからない)」と答えた6人の創作活動を通しての感想には、「友だちといろんな意見を出し合ってダンスを作ると、とても心のこもったダンスになった」「踊っているうちに、ここはもっとこうすればいいんじゃないか、とどんどん動きに具体性が出てきて、アイディアが自然とふくらんでいった。そのテーマにより近くなればなるほど、踊るのも楽しくなった」というものがあり、自分一人だけでは困

難に思える課題も、仲間と協力すると目的を達成できたという満足感が、ダンス観や自己への見方を拡大させ、「表したいことがあってもどう動いていいかわからない」に対して「No」とは言い切れないものの「No」に近い「? (よくわからない)」を選ばせたのではないだろうか。

さらに、学習前には「表したいことがあってもどう動いていいかわからない」という問いに「No」と答えたが、学習後は「? (YesかNoかよくわからない)」と答えた者の創作活動を通しての感想にも、「友だちのからだにくっついたこと、友だちの心を読みとったみたいで楽しかった」「前よりもちょっと友だちの気持ちがわかるような気がした」という記述がある。これは前半の課題学習で“からだでコミュニケーション”したことが学習終了後も楽しい経験として残っているからであろう。これをダンスの本質に触れる楽しさとしてグループでの作品づくりにおいても経験させ、達成感・満足感を味わえるようにすることは大変重要なことであると考える。

また「題を聞いても表したいことが何も浮かんでこない」「表したいことがあってもどう動いていいかわからない」という問いに「Yes」と答えている者も若干いる。また授業後の、創作活動を通して困ったことを書く欄に、「人の評価とかもどうやって書けばいいのかわからなかった。」と記述している学習者もいる。彼女たちは、友だちと協力して踊りを考えることを今まであまりやることがなかったため最初ははずかしくてとまどっていたのに、前半の課題で友だちといっしょにやったおもしろさを感じることで、テーマを聞いただけでも考えが浮かんでくるようになったこと、作品創作を通して友だち

と協力して作り上げていく楽しさ、その作品をみんなに見てもらうことの楽しさも記述している。そして来年のダンスの授業ではもっと大ききに動きたいと結んでいる。

また、「いつもよりもっと素直に私の地の性格や考えで心おきなくできたことがとてもよかった」「友だちと気持ちをそろえることができた」「いろいろな友だちと関わられた」という記述もある。ここを解放するという、からだでコミュニケーションすることがある程度はできたのかもしれない。が、動きとイメージをどのようにしてつなげていくのか、それをどのような手法で表現していくのかといったダンスの技能ということについては、今後の授業展開に工夫が必要な部分である。

### 5) 学習後の自己評価

表3は、学習終了後の自己評価を集計したものである。「楽しく取り組めたか」「友だちの表現の良さを認めあえたか」「友だちと協力してできたか」という問いに対しては約8割が「Yes」と答えており、友だちと楽しく活動できたことがうかがえる。また、「前半の課題学習は理解できたか」についてもおよそ7割が理解できたと答えていて、ある程度ダンスの学習方法について見通しが持てたようである。「作品づくりに積極的に関わりましたか」という問いに6割強が関わられたと答えていることからこれは明らかである。さらに、「前半の課題学習でいろいろな友だちと関わられたか」「(作品を)友だちと気持ちをそろえて踊れたか」という問いに対しては約6割が「Yes」と答えており、5段階の「4」を選んだものも合わせると、ダンスという授業の課題を解決していく過程

表3 学習終了後の自己評価

(人)

問	自己評価	1	2	3	4	5
(1) 楽しく取り組みましたか		0	0	0	9	48
(2) 恥ずかしがらずに精一杯踊れましたか		0	0	7	30	20
(3) なりきって踊れましたか		0	0	5	26	26
(4) 前半の課題の学習は理解できましたか		0	0	5	12	40
(5) 課題の学習で、1時間毎にいろいろな友だちと関わりましたか		0	1	7	17	32
(6) 自分たちの作品に満足していますか		0	3	11	25	18
①表現したい内容を十分表現できましたか		0	1	7	23	26
②テーマにふさわしい動きを見つけましたか		0	1	5	22	29
③作品づくりに積極的に関わりましたか		0	0	4	18	35
④作品のはこびを工夫できましたか		0	1	14	22	20
⑤友だちと気持ちをそろえて踊れましたか		0	1	3	17	36
⑥友だちの表現の良さを認め合えましたか		0	0	1	8	48
⑦友だちと協力して活動できましたか		0	0	1	11	45

※①～⑦は作品についての質問である。

でいままであまり関わったことのなかった友だちと関わり、気持ちをそろえて作品に取り組みたいえよう。

「恥ずかしがらずに精一杯踊れたか」「なりきって踊れたか」という問いに対しても、「5」を選ぶ者は3割強にとどまっているが、「4」を選んだものも合わせると9割弱が「Yes」と答えていることになる。「なりきって踊る」ことについては、図6のダンスについての認知の変化からも分かるが、「恥ずかしがらずに…」については、「思い切れてできない方だけどみんなとやってみたら精一杯踊れた」ということなのであろう。

さて、「自分たちの作品に満足しているか」の問いに対しては約3割しか「5」を選んでいない。「表現したい内容を十分表現できたか」「テーマにふさわしい動きを見つけたか」「作品の運びを工夫できたか」という問いに対しても「5」を選んでいる割合は低い。友だちと充実した創作活動はできたが、美的創造の能力やダンス観の拡大によって「もっとこんな風にすればもっといい作品になったはずだ」という思いが「5」ではなく、「4」を回答させたのではないだろうか。

表4 自分自身の作品に対する満足度 (人)

作品名	5段階評価				
	No			Yes	
	1	2	3	4	5
THE ☆ バスケ				3	2
ふん水		2	5	1	
BOKUSHINGU			1	5	1
ゾンビのある夜				2	3
大草原を駆け回る少女たち			3	2	
ボーダー				7	2
ザ ☆ パルーン				2	5
リンゴの妖精ばあとつう			1	1	3
CAT'S		2	2	1	2

表4は、先の自己評価の「自分たちの作品に満足しているか」という問いに対して、各作品毎に集計したものである。「ゾンビのある夜」「ボーダー」「ザ☆パルーン」「THE☆バスケ」などの作品は、創作のはじめの段階からおおざっぱに動きを作り、何度も躍りこんでいて学習者自身の評価が高く、授業者から見ても作品構成や堂々と精一杯の動きに高い評価ができるものである。これらの作品について3以下の評価をしたものはいない。授業者から見てこの作品に満足度「5」をつけるのはどうだろうか？というものもなきにしもあらずだが、それは友だちと関わって活動したことに満足しているのであろうとも考えられ、だいたいのところ、作品の出来とその作品に対する満足度が一致していて、お互いの動きを見せ

合うことを通して、ダンスを評価するという「目」は養われていっているようである。

## 5. まとめと今後の課題

教育課程の改訂で、保健体育科の目標に「心と体を一体としてとらえ」という表現が加えられたことを機に、過去にダンスセラピー的な内容を取り入れた授業を行ったことが土台となって、子どもたちがこころとからだを一体として夢中になって取り組み、こころとからだを解放できるようなダンス学習のあり方を求めて、自分のからだに気づき、友だちと感じ合って動くことをテーマに授業を行った。

今回の授業では、①思い切りこころとからだを投げ出してダンスの世界を楽しむこと、②いろいろな課題から動きを広げイメージの世界で遊ぶこと、③友だちといっしょに動きを作り出していくダンスの学習の方法を学ぶことを目標に、約束①恥ずかしがらず堂々と、②思い切りからだを動かそう、③友だちの表現を認めて楽しもう、④自分のからだに向き合おう、をかかげて取り組んだ。そして、実際に活動に入った第2時と、第3～7時の課題学習に入る前のダンスウォーミングアップに、主にダンスセラピー的な内容を取り入れ、“自分のからだの声を聴く”ことを通して、丸ごとの自分を認識し、自己表現の質を高めたいと考えた。さらに、毎時間の見せ合いやダンス学習カードを記述することによって、学習者一人ひとりが自分とは違うイメージに出会ったり、ひと流れを動くときに困ったときにはどうすればよいか、学習の方法を見通せる能力を育てようとした。

ほとんどの学習者が創作するという事について初めての体験であったが、友だちのこころを感じて動くことで動きが生まれてくること、友だちとからだでコミュニケーションがとれることを実感し、ダンス学習に対する興味・関心をふくらませて楽しく学習に取り組んでいったようである。単元全体の始まりである第2時と、第3～7時の課題学習に入る前のダンスウォーミングアップは、まさにダンス学習において勝負の時間である。ここで、学習者自身が授業の目標を明確にし、授業の見通しを持って、こころとからだを解放して安心して授業に取り組むことができるように、授業者が注意深く計画的にエネルギーを注ぎ込めるかどうか勝負の分かれ目なのである。この時間に“自分のからだの声を聴く”ことをていねいに積み重ねていったことが、学習者たちがよりお互いに触れ合え、友だちとからだでコミュニケーションをとれる自分に気づくことに有効であったといえる。

そしてそのような体験があったからこそ、ダンスの技能についても、創作活動や鑑賞活動を通して、主題を捉

え動きの誇張や繰り返し・視線といった表現方法について気づき、それを作品に生かして発表することに達成感・満足感を味わえたのであろう。

授業後の感想の中に以下のようなものがある。「自分の考えた動きが、みんなの意見でいろいろ変わってさらによくなったのがすごくおもしろかったです」「みんなのアイデアを吸収したのでこれを自分の中で生かせよう。とにかく何もかもが自分のためになりました」「からだを使って表現することは、はずかしいと思っていたけど、今は『こんなに楽しいものなんだ～!!』って感じられてすごく嬉しい」「自分に自信ができました。自分は体がかたいし、想像力がないのでだめだと初めは思っていました。だけど、体がかたくても、自分なりに表現できたからよかった。いい体験が出来たと思う。来年もさらにレベルアップしてがんばろう!!」と、自分のうちにあるものを、友だちと関わって外に向かって表現し、なんだか一回り大きくなった自分に気づいたような記述である。

さらには、「今まで、はっきり言って人の考えを認めるのが大っ嫌いだったかもしれない。けれど、人の作品を見てすごいなあとか、キレイとかまとまってるかと思えた。授業のはじめ（前半）の方で友だちを否定したのは、認めたくなかったからかな?とあったし・・・。これは成長した証拠だね?」と、これまで自分が狭い範囲でしかものごとを考えていなかったことに気づき、‘自分らしさ’について考え、ダンス観を拡大していったようである。そしてそれを支えたものは、「自分たちで作った作品を見てもらって拍手をもらったのは、すごくうれしかった。自分の作品が認められた気が少しした」とあるように、やはり友だちとお互いの表現を認め合っで感じ合っで動いた経験が大きいのではないかと思う。

しかし、まだ動くことが「はずかしい」と感じている者も若干おり、学習者自身もこれから学習を積み上げていかななくてはならない。また、学習後の自己評価で述べたように、充実した創作活動と、美的創造の能力やダンス観の拡大によって、「もっとこんな風にすればもっといい作品になったはずだ」という質的な高まりに動きのボキャブラリーをどうふくらませながら与えていくのか、もっと体幹を意識させるようなことばがけをいつどのようなタイミングでするのか、といった授業者の側の技術的な課題が残されている。この課題を解決していくことがまさに「こころとからだを一体としてとらえ」につながるであろう。授業者としても、動きとイメージをどのようにつなげていくのか、それをどのような手法で表現していくのかといったダンスの技能については、今後の授業展開にさらなる工夫が必要である。そのよう

な学習を通して、学習者たちが感じている動くことの楽しさや喜びと、テーマにふさわしい動き、はこびの工夫がされた満足のいく作品への欲求などを実現させてやるのが、今後の課題となるであろう。

## 引用・参考文献

- 1) 松本富子：「ダンス学習の成果—教育評価 第1節 学習の成果をとらえる」、松田岩男・松本千代栄：ダンスの教育学1 ダンス教育の原論、徳間書店、1992、p.240
- 2) 八木ありさ：「ダンスセラピー的アプローチ」、『体育科教育』別冊⑩「体ほぐしの運動」、大修館書店、Vol.48 No.5、2000、pp.86-91
- 3) 文部省：中学校学習指導要領解説 保健体育編、平成11年
- 4) 高橋健夫：「新教育課程と体育の方向」、『体育科教育』、大修館書店、Vol.49 No.3、2001、pp.10-13
- 5) 片岡康子：「新時代の『表現運動・ダンス』の授業とは」、『体育科教育』、大修館書店、Vol.48No.10、2000、pp.10-13
- 6) 高橋和子：「『からだ気づき』からの問いかけ」、日本体育学会第50記念大会大会号、1999、p.165
- 7) 高橋和子：「ボディ・アウェアネス」、『体育科教育』別冊⑩「体ほぐしの運動」、大修館書店、Vol.48 No.5、2000、pp.98-103
- 8) 日本女子体育連盟：『女子体育』、Vol.43 No.7・8、平成13年
- 9) 五十嵐淳子：「『体ほぐしの運動』をどう位置づけるか」、『体育科教育』、大修館書店、Vol.49 No.4、2001、pp.48-51
- 10) 松田岩男・松本千代栄：ダンスの教育学1 ダンス教育の原論、徳間書店、1992
- 11) 松田岩男・松本千代栄：ダンスの教育学3 創作ダンスの基本的段階、徳間書店、1992
- 12) 松田岩男・松本千代栄：ダンスの教育学4 創作ダンスの発展的段階、徳間書店、1992
- 13) 松田岩男・松本千代栄：ダンスの教育学6 全国の研究・実践事例、徳間書店、1992
- 14) 高橋健夫・高橋和子他：「『体ほぐし』の授業の確立を目指して」、『体育科教育』、大修館書店、Vol.49 No.5、2001、pp.10-39